

SDGs 探究 MAP を使った高大連携講座における オンライン掲示板 Padlet 活用の効果

宮下 伊吉^{*1}

^{*1} 三重大学

Effect of the On-line board Padlet in Collaborative Seminar by High School and University using SDGs investigation map

Miyashita Ikichi ^{*1}

^{*1} Mie University

コロナ禍の影響により、2018～2019 年度にかけて実施していた SDGs 探究 MAP を使った高大連携講座における大学生と高校生とのグループ活動が困難となった。そこで、オンライン掲示板を活用することで受講者である高校生のコメントの共有を試みたところ、対面とオンラインで別々にした同じ内容の高大連携講座 (SDGs 探究 MAP 使用) で、受講者同士の学びの可視化と振り返りに効果がみられた。

キーワード: 高大連携, SDGs, 探究, オンライン掲示板, Padlet

1. 本研究の背景と目的

大学の講義や実験・実習等の一部を体験させることや、将来のやりたい仕事ややりたい職業をイメージさせることで、進路選択 (志望学部・大学選択) に結び付ける個々の大学教員が主に単発で行ってきた高大連携を筆者は「体験型高大連携」と定義している。その一方で、新学習指導要領 (高等学校では 2022 年度施行) の「総合的な探究の時間」で示された目標「社会と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理分析し、まとめ・表現でき、課題発見・解決に向けて、互いの良さを生かしながら新しい価値創造とよりよい社会を実現しようとする態度を養う」につながる高大連携を「探究学習型高大連携」と筆者は定義している。大きな違いは、社会との関わりの中から自分自身を振り返り、自ら学びに向かうことができる視点を持つことができるかである。

2018～2019 年度にかけて筆者が担当・実施してきた SDGs 探究 MAP を使った高大連携講座では、主に文理選択に悩む高校 1～2 年生を対象に、大学生の協力を得ながら、高校生のグループ活動を行うことで、社会との関わりの中から自分自身を振り返ることがで

きるように、インストラクショナルデザイン理論に基づいて講座を設計してきた。しかし、コロナ禍の影響により、2019 年度に著者が担当・実施していた 6 件の高大連携講座は、2020 年度には対面による講座を実施できなくなり、Google Meet や Zoom を使ったオンラインによる講座を 2 件実施するにとどまった。2021 年度には、対面が 2 件、オンラインが 5 件とトータルでの実施件数は 2019 年度より増えた。何よりも大きな変化は、2019 年度に 6 件の講座のうち 3 件しか実施・回収できていなかった受講者アンケートを、2021 年度ではオンライン掲示板を活用することで、実施した 7 件の講座の全ての高校生から受講コメントを速やかに確認できるようになったことである。本研究では、2021 年度に対面とオンラインで別々にした同じ内容の高大連携講座 (SDGs 探究 MAP 使用) で活用したオンライン掲示板によって、どのような効果がみられたかを明らかにしていく。

2. 研究対象と実施方法

本研究で対象としたのは、2021 年 6 月に対面とオンラインで別々に実施した同じ 1 時間の高大連携講座

「見つけよう、自分にあった学問分野～SDGs 探究 MAP を使って～」を受講した高校生である。対面で実施した A 高校は高 2 生 40 人、Zoom によるオンラインで実施した B 高校は高 1 生 34 人が受講した。A 高校、B 高校ともに、高校側が高校生に 1 人 1 台のノートパソコンを用意した上で、大学生の高校生向けメッセージ動画を視聴して、オンライン掲示板にコメントを書き込むという同じ講座内容で実施した。(図 1)

対面による A 高校では、高校の教室内でプロジェクターに動画を投影しながら、オンライン掲示板 Padlet には書き込んでもらった。オンラインによる B 高校では、Zoom の画面共有で動画を視聴してもらったあと、オンライン掲示板 Padlet に書き込んでもらった。なお、Padlet は、Google Jamboard や miro などの他のオンライン掲示板と異なり、共有の URL または QR コードからすぐに書き込みが可能であり、学校の共有パソコンを使用している高校生にとって個人 ID 等の設定やログインが不要であることから Padlet を使用した。また、A 高校、B 高校ともに、Padlet に書き込む際に、Padlet 上で共有している SDGs 探究 MAP を使って、高校の教科科目 16 から興味があるものや、大学で学ぶ学問分野 16 から関心があるもの、SDGs 目標 17 から気になるものをチェックさせた。(図 2)

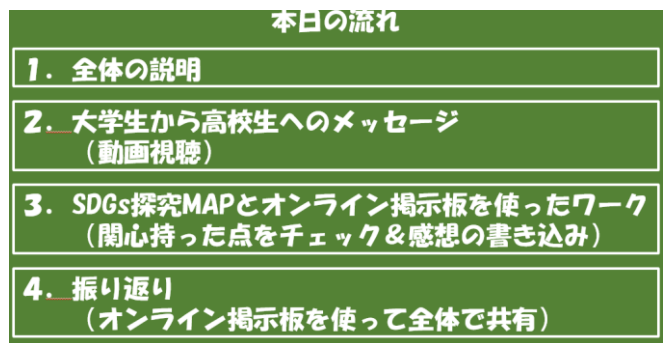


図 1 A 高校, B 高校共通の高大連携講座の内容



図 2 Padlet で共有した SDGs 探究 MAP

3. 実施結果

オンライン掲示板で書き込みを共有することにより、学んだことの可視化と振り返りから学びへの興味・関心や意欲の高まりを講座の実施中に読み取ることができた。例えば、A 高校の書き込みでは、「広い視野で世界を見ることが大事だと思う」「高校でも同じような分野に興味を持った子とグループを作って学習できればいいなと思った」等がみられ、B 高校の書き込みでは、「クラスみんながどのようなことに興味を持っているのかを知るいい機会になりました」「みんなの意見を見られるのがとても面白いです」等がみられた。(図 3)



図 3 B 高校のオンライン掲示板 Padlet の書き込み

4. まとめと課題

本研究で対象とした A 高校、B 高校では、オンライン掲示板への書き込みコメントから、高大連携講座の経験を省察し、全体共有はできているが、共有から得た気づきを踏まえて自分の考えをまとめ(概念化)、表現(実践)するまでには至っていない。オンライン掲示板を活用すれば、1時間の制約にとらわれず、事前・事後での書き込みや大学生・大学教員との意見交換も可能である。今後は、オンライン掲示板の双方向性の機能を生かした企画を検討し、実践していきたい。

参考文献

(1) 宮下伊吉: “高大連携における学生主体の活動による受講者満足度への影響”, 令和元年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会研究発表予稿集, 第 14 回, pp.252-255(2019)

(2) 宮下伊吉: “SDGs 探究 MAP を使った高大連携セミナー”, 日本教育工学会第 36 回全国大会論文集, pp.313-314. (2020)